



**Tackle Guide**

繊細なアタリを感知するには湾フグ専用竿がお勧め。ヨリフグの時期は、胴つき2~4本バリの食わせ仕掛けを使う。ビギナーは全長が短く扱いやすく、エサ付けも楽な2本バリがいい。



▲ゼロテン状態にしてアタリを待ち、3秒に1回空合わせ

さわ数をのぼしているのが右  
ミヨシの金澤さんだ。  
金澤さんは仕掛けを軽くキ



▲大貫沖でフグの数釣りを楽しめる季節が到来

旬の沖釣りをエンジョイ!

今がチャンス!  
これから楽しみ!

# 釣りどきレポート

Best Season Report

10月に入って暑さもようやく一段落。  
今回は東京湾の有望ターゲットと  
上向き加減の釣り物4種をレポート。  
秋の人気魚を存分に楽しみましょう。

▼金澤さんは25センチ級を頭に30尾でフィニッシュ



「根掛かりに気を付けてください。水深は10メートルです。どうぞ!」とのアナウンスで再開。

ここで右トモ3番の上蘭さんが積極的に誘いを入れ、25~30センチ級を連釣してエンジン全開。上蘭さんの釣り方はタルマセで誘うカワハギ釣りに似ていて、仕掛けが着底したら糸フケを取り、オモリを底に着けたままタキを入れる。この動きによってフグに興味を抱かせ、執着させるというのが狙いだ。タキのあとはゼロテンションに戻して、3~5秒食わせの間を入れる。

当日は中潮、11時ごろから潮が動いて上げ潮が効き始めると一気に食いが上向く。フグの活性が高いときは、仕掛けを下ろすだけでバリバ

リ釣れる。フグは底から浮いて仕掛けが着底する前からエサに寄ってくる。そのため着底したら素早く糸フケを取るが大切で、もたついて仕掛けがたるんだままではあつという間にエサを取られてしまうようだ。

フグが浮いているならオモリを底から離せばいいのでは? とつい船長にたずねると、底を切って仕掛けを張ったままより、オモリを底へ着けてゼロテンで待つほうがアタリは出やすいとのこと。

やがて船内から「やられた」「切られた」「せめてハリは残してくれよ」という声が聞こえてくるようになった。

活性が上がったのはシヨウサイフグだけでなく、サバフグも一緒らしい。アタリの多くはサバフグで、エサの消費量が増えるだけでなく、厄介なことにはチモトからハリスをかみ切るの、仕掛けの消耗も激しい。

「こればかりはどうすることもできませんね。替えバリを20本用意してきましたが半分なくなりました」と金澤さん。

**船宿information**

東京湾奥浦安

**吉久**

☎047-351-2983  
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=フグ乗合一人 9500円、  
エサ1パック 500円

▶備考=予約乗合、7時出船。ほかタチウオ、  
ライトアジ、ルアー五日へも出船



今後とも群れが釣り場に集まっているうちは引き続き数釣りメインで楽しめるとのことなので、早めの釣行をおすすめしたい。

サバフグは少し浮いているように比較的上のほうのハリに掛かる。

一方のシヨウサイフグは下のほうのハリによく掛かるようになり、金澤さんはエサが自然な状態で海底に着いてフグが食べやすくなるようオモリの上にハリを付ける。これが奏功し14時の沖揚がりまでに30尾を数えた。

釣果は18~34センチのシヨウサイフグが10~31尾。10尾は初挑戦の方、25~30尾前後の方がほとんどで皆さんうれしそう。

秋は東京湾のフグ、いわゆる「湾フグ」釣りの好期で、一年を通じて最も数が出る。広範囲に散っていた群れがまとまる季節であるとともに、まだ水温が高くフグの活性が高いので、アタリがたくさん出る傾向にある。

大貫沖の根周りにフグが寄り集まって数釣りが楽しめる「ヨリフグ」といわれる現象がその象徴。今年もヨリフグとしては昨年よりもサイズのよい20~25センチ級が多く、いい日はトップ40~50尾の釣果が上がっている。

連日盛況の湾フグ模様をお届けするため9月14日、東京湾奥浦安の吉久へ向かった。大澤船長にあいさつして近況をうかがうと、前日はフグの食いが活発でとくに上げ潮で入れ食いとなり、トップ45尾、ほとんどの方が30尾以上を釣り上げクーラー満タンで帰った。

仕掛けは胴つき2~4本バリ。エサはアルゼンチンアカエビで頭と尾羽根を切って殻をむき、フグがエサを食べやすいように身を1センチ角ほどにカットして縫い刺しにする。エサを食べたときにハリが口の中に入りやすくするためハリ先は出さずにエサの中に隠しておくといいそうだ。

早揚がりしたとのこと。今日も十分期待できそうだ。

**出足から好調**

6時半に船長から釣り方やエサの付け方などのレクチャーがあり、その後乗船者15名で定刻7時に出船、ポイントの大貫沖に8時ごろ到着。

「ここはカットウ仕掛けは禁止です。胴つき仕掛けを使ってください。オモリは20号です。水深は9メートル。どうぞ!」と船長からのアナウンスで釣り開始となる。

**知得! Tips and Tricks**

替えバリは多めに用意する

アタリがあってもハリ掛かりせずにハリがなくなっていることがある。これはサバフグの仕業で、ハリをチモトをかみ切るためハリがどんどんなくなってしまう。また、釣っていくうちにハリ先が甘くなると掛かりが悪くなる。とにかく交換用のハリを多めに準備しておこう。

替ハリは船でも購入できる

フグの群れは濃いようでも1流し目から船中のあちこちで20センチ前後のフグが取り込まれる好スタート。

時には3名同時にヒットする一幕もあり、序盤から爆釣タイムが続く。その中でひと

## 大貫沖でヨリフグ狙い 今年も型も数も大満足!!

◎東京湾奥浦安発! 大貫沖  
本誌編集部 近田憲男 Norio Chikuda